

# kanamoto examiner

カナモトエグザミナー



株主の皆様ならびに投資家の皆様へ

第42期第1四半期号

## vol.35 contents

- 2 News Headline  
第41回定時株主総会のご報告 ほか
- 5 Lineup  
取扱商品のご紹介
- 6 1st Quarterly Report 2006  
第42期第1四半期財務・業績の概況
- 10 Shareholder's Q&A  
株主様からの質問に答えるQ&Aコーナー
- 11 Investor Information  
株式情報



## 第41回定時株主総会のご報告

株主の皆様には既報のとおり、2006年1月27日、第41回定時株主総会を本社ビルで開催し、3議案ともに満場一致で可決されました。1月という寒い季節にもかかわらず、毎回ご出席いただいている株主様もおられ、役職員一同、心より感謝申し上げます。

毎年、ご参席の皆様にご理解を深めていただけるよう総会開始前に業績・経営計画のプレゼンテーションを実施してきました。今年はBGMを流しながら映像だけをご覧くださいという、例年とはちょっと異なる

趣向を試みまして、株主様から「解りやすい。今後も続けてほしい」というご感想を賜りました。これからは、今後もより良い資料作成を心掛けてまいります。

また、本年度のインターネット議決権行使の結果ですが、名義で4.0%、個数で0.2%と昨年を若干下回る結果となりました。未だ浸透していないインターネット議決権行使ですが、やってみると非常に簡単ですので、株主総会にご参席いただけない株主様におかれましては、是非一度お試しください。☑

## いすゞ自動車からの車両導入が5,000台を突破



いすゞ自動車・井田義則代表取締役社長

2005年10月に、カナモト向けいすゞトラック・ダンプ車両(2t、4t)が5,000台を突破したことを記念して、「いすゞ自動車5,000台納車記念パーティ」が、2006年1月27日、札幌ルネッサンスホテルで開催されました。

主催者のいすゞ自動車株式会社からは井田義則代表取締役社長、北海道いすゞ自動車株式会社からは小佐野隆正代表取締役会長と野原弘也代表取締役社長がご出席され、当社からは社長の金本寛中以下、役員や各地区部長、ブロック長、所長など約200名が出席させていただきました。当社がいすゞ車の導入を開始したのは1979年。以来、30年近く



乾杯は北海道いすゞ自動車・野原弘也代表取締役社長

にわたって同社からレンタカーなど車両系レンタルアイテムを導入してきました。今回の式典は、同社との結束力をより強固にすると同時に、両者の協力関係をさらに発展させるうえで大変有意義なものとなりました。

いすゞ自動車の井田社長は、式辞で「現在、長期計画で変革を実践しているカナモト社とともに当社もサービス体制を変革しつつ、1日も早く1万台納車記念パーティを開催できるようこれからも研鑽していきたい」とコメント。これを受けて、当社社長の金本寛中は「いすゞ社の製品は、当社のニーズに合致したもので、製品の品質からサービスに至るまで最上級。これからも優れた製品を供給していただき、麗しい共生の関係を築いていきたい」と感謝の気持ちを語りました。今後も引き続き、同社との関係を一層発展させていくとともに、より確固たるパートナーシップを築いてまいります。☑



生バンドの演奏が式典に華を添えました

## 地盤改良工法のエンジニアリング会社、フローテクノ社を子会社化しました

3月1日付で発表しましたとおり、当社はフローテクノ株式会社(本社:福岡市博多区)が発行する新株(普通株式)を取得し子会社化いたしました。

フローテクノ社は、地盤改良工法に特化したエンジニアリング会社で、現在までに関連特許を15種も取得しています。特に、同社が有する都市再生型インフラ整備(40m以深の大深度地下工事)対応の工法や、橋梁の維持・補修工事の新工法などは、今後、首都圏で需要拡大が大きく見込まれる分野の技術です。

埋立地などの軟弱地盤に構造物を建設する際、地震への備えから地盤の強度を高めるための地盤改良工事が必須となります。当社が関係した工事では、幕張メッセ(千葉)やみなとみらい21(神奈川)、羽田空港(東京)、淀川スーパー堤防(大阪)のほか、各地に点在する石油備蓄基地などがあります。

従前から地盤改良工事に対応した建機レンタルを強みとする当社にとって、この分野の技術力強化は大きな



佐賀県の導水管工事現場で活躍する同社の地盤改良機械

筑後川での地すべり抑止地盤改良工事現場の様子



メリットとなります。地盤改良に関する多岐に渡るエンジニアリング機能のメニューを得られるとともに、技術に裏打ちされたコンサルティング営業の展開をすることができるため、これまで以上にこの分野で優位に立つことが可能になります。同社をグループに迎えることで、当社は得意とする地盤改良で首都圏のシェア拡大を図れることから、今後に期待しております。☑

## 第57回さっぽろ雪まつりに協賛いたしました

札幌の冬を盛り上げる風物詩「さっぽろ雪まつり」が、2月6日～11日の6日間にわたって開催されました。57回目となる今年は、従来の真駒内会場に代わって「サッポロさとらんど」が新会場として加わり、大通会場、すすきの会場と合わせ、約200万人の方が来場され



当社がご用意したハウスがこんなところに出現!雪まつり会場の事務所として活躍しています



夜になるとイルミネーションツリーの電灯が点灯して、幻想的な雰囲気になります

ました。

当社も微力ですが、毎年、雪まつりのお手伝いをしています。

札幌テレビ塔を間近に望む「大通1丁目会場」では、イルミネーションツリーの周りに当社の看板を設置したほか、現地事務所となる仮設ユニットハウスもご用意。また、大雪像2基が並んだ「大通4丁目会場」にも行灯と仮設ユニットハウスを提供しました。他にも、現地事務所の上の看板にカナモト坊やのイラストを使用するなど、会場の「彩り」として雪まつりを盛り上げました。全ての写真を載せられないのが残念ですが、どの雪像・氷像も力作揃いで感心するばかり。こうした華やかなイベントをお手伝いできるのも嬉しい限りです。これからも建設現場だけでなく、様々なイベントに積極的に参画してまいります。☑

## 今年も各地で販売キャンペーンを開催いたします

昨年各地で大盛況だった販売キャンペーン。今年も日頃のご愛顧に感謝を込めて、各地で「カナモトサクスフェア2006」を開催する予定です。

4月8日、9日の函館を皮切りに、小誌がお手元に届く頃には、北海道の各所でキャンペーンが目白押し。もちろん北海道だけではなく、5月以降には東北や関東でも開催を計画しています。詳細が決まり次第、弊社ホームページ( <http://www.kanamoto.co.jp> )に開催情報を随時アップしてまいりますので、ご確認のうえ是非ご来場ください。建機の試乗体験コーナーや特産品販売などのイベントもあって、ご家族で楽しんでいただけます。☑



## 2006年7月に開催されるCONETに出展します

今年の7月13日～16日、(社)日本建設機械化協会主催による「CONET2006」が幕張メッセ(千葉県)で開催されます。これは国内最大の建設機械・施行技術展示会であり、当社も出展いたします。

「けんせつつかい 未来への挑戦!」と題したCONET2006のテーマは「環境・防災・安全」。屋内・屋外の展示ブースを舞台に、数多くの建設機械メーカー建設関連業者が、現在の最先端技術と、最新の製品を展示する一大イベントです。国内のみならず、諸外国からも高い評価を得ている展

示会であり、当社も総力を挙げて新材材や取扱製品などをご紹介します。屋内はもとより、建機の性能をよりフレキシブルにアピールできる屋外展示も予定しています。入場無料ですので、ぜひご来場いただき、当社ブースにお立ち寄りください。☑



前回開催されたCONET2003の会場の様子

## 今年は、38名の新入社員が入社いたしました



答辞する新入社員代表・今川社員

4月3日、淡雪舞うなか、当社本社ビルで2006年度入社式が開催され、新卒38名が入社いたしました。入社式では、社長の金本寛中が「今日から皆さんは、カナモトグループの一員として、諸先輩・同僚とともに手を携え、ともに考え、ともに汗をかいていくことになります。これからの社会人

生活が実りの多いものである事を切望してやみません」と訓示。これに対して、新入社員代表、大阪南営業所配属の今川社員が「日々、努力に努力を重ね、諸先輩方の豊富な経験を吸収しながら着実に自己を成長させていきます。今の私達にしかできない新しい発想や、失敗に怯まない若さあふれる行動力を存分に発揮し、カナモトに新しい風を吹かせたいと思います」と力強く答辞しました。

各人緊張した面持ちで4日間のセミナーを受講した後、各拠点に配属されました。当社の将来を担うカナモトフレッシューズ。今後の活躍が期待されます。☑

## Lineup 取扱商品のご紹介

今回の取扱い商品紹介コーナーでは、第3次基準排ガス規制に対応した最新型の「油圧ショベル」と、超低騒音を実現した「ディーゼル発電機」および当社取扱いの「災害緊急ツールBOX」をご紹介します。

### 油圧ショベル PC200-8



世界レベルの建設機械メーカー、コマツ社が提供するニューモデル『PC200-8』は、最新技術「ecot3」を駆使したエンジンを搭載し、NOx(窒素酸化物)排出量を従来機より29%低減。欧米の同基準に比べ、最も厳しい国土交

通省第3次基準排ガス規制がこの3月に告示されていますが、この基準もクリアする性能を有しています。

また、エンジンや油圧機器を電子システムで制御するトータルビークルコントロール(車体総合制御)によって、燃料消費量を最大で10%低減するなど効率性・実用性を一層向上しました。加えて、機体転倒時や落下物から運転手を守る保護構造や、静音設計を組み込んだキャビンの仕様もこの機械の特長の一つ。常に最新の商品ラインナップへの更新に努める当社がお届けする、新しい公害対策機です。☑

### 災害緊急ツールBOX 役にたつおくん

地震や火事など突発的な災害に見舞われても、万全の備えをしておけば安心なはず。そこで登場したのが当社の災害緊急ツールBOX、名付けて「役にたつおくん」です。

「役にたつおくん」は災害時に必要な非常用備品をまとめた万能セット。ヘルメットや救急箱、ランタンラジオから消火器にいたるまで、緊急時になくてはならないアイテムを収納しています。また、ケース本体は耐久性に優れたFRP(繊維強化プラスチック)製で、緊急時には水槽としても利用できます。

日頃から用意しておきたい“転ばぬ先の杖”。油漏れ対策の「油止め蔵」に続き、カナモトは現場の方が一の事態もサポートする製品を取揃えています。もちろん、建設現場以外でもご利用いただけます。お問合せは最寄りの弊社営業所まで。☑

### 極超低騒音型ディーゼル発電機 NES45AP

静かなホテルのロビーの騒音レベルは60dB。それを下回る53dBという静かさを実現したのがこの発電機NES45AP。低騒音だけでなく、移動やメンテナンスなど使い勝手に配慮した工夫があちこちに付されています。

例えば機体寸法。従来よりも全長を約20cm短くすることで、2tトラックの荷台幅に収まり、荷物の効率的な積み込みが可能になりました。しかも、コンパクトサイズながら燃料タンクはクラス最大の180ℓで、長時間運転が可能です。

また、出力端子が本体の側面上部に設置されているため、立ったままでも配線が行えること、工具を使わずにオイル交換が行えるなど、作業従事者の負担を大きく軽減する設計となっています。☑



## 第42期第1四半期財務・業績の概況 [2005(平成17)年11月1日から2006(平成18)年1月31日まで]

### 経営成績(連結)の進捗状況

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期(当期)純利益 (百万円)	EPS (円)
42期第1四半期	17,503( 0.6)	1,290 (72.3)	1,237 (72.1)	317( 20.3)	10.63
41期第1四半期	17,612 (8.3)	748( 8.0)	719( 9.0)	398 ( 0.4)	13.33
(参考)41期通期	63,975	1,404	1,550	352	11.57

(注)売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

### 経営成績(連結)に関する説明

#### 経営環境

当第1四半期の日本経済は、原油高騰が日本経済の牽引役である製造業の景況感に大きく影響したものの、不良債権処理に目途がついた主要金融機関をはじめとして主要企業の収益も改善基調にありました。当社グループの主要ユーザーである建設業界では、民需が旺盛な首都圏や東海地区では堅調に推移しました。しかし、地方では工事量の激減など依然閉塞感が強く、厳しい環境にありました。その中において当社グループの主力事業である建

機レンタル事業においては、レンタル売上は回復の遅れる北海道を除き、全般的に堅調に推移しました。

この結果、平成18(2006)年10月期第1四半期終了時点での連結売上高は175億3百万円(対前年同期比0.6%減)、連結営業利益は12億90百万円(同72.3%増)、連結経常利益は12億37百万円(同72.1%増)、連結当該四半期純利益は3億17百万円(同20.3%減)となりました。事業別の概況及び特記すべき事業展開等については下記のとおりです。

### 事業別概況

#### 建設関連事業

北海道地区では公共事業が大幅に減少しているなか、前年同期とほぼ変わらない微減に止める健闘を見せております。同地区で展開する保安用品や仮設足場などのレンタルは好調に推移して、昨年を大幅に上回りました。北海道を除く東北、関東・信越、近畿・中部、九州の各地区はそれぞれ前年同期を上回っております。中でも東北地区は、少ない官需民需を取り込み、前期に引き続き好調に推移して二桁の伸びを示しております。関東・信越地区についても好調な滑り出しで、首都圏の大型再開発事業と新潟県中越地震対応などから前年同期を上回りました。近畿・中部地区は大型工事が一段落しましたが、(株)カンキ(子会社、兵庫)との相乗効果もあり堅調に推移。九州

地区は災害復旧工事特需もありレンタル・販売ともに好調に推移、特に仮設ユニットハウス販売が好調でした。

#### 鉄鋼関連事業

工場新築需要がなかったこと、鋼材の市中在庫過剰感から販売価格も低迷したこと、鋼材納品の期ずれなどから前年同期を下回る結果となりました。

#### 情報通信関連・その他の事業

首都圏のパソコンレンタル需要が引き続き堅調で、レンタル売上は対前年同期比変わらず、また、商品売上は回復機運にあり、部門全体の売上では微増となりました。

## 特記すべき事業展開と拠点新設閉鎖の状況

当第1四半期における拠点の新設閉鎖については本年1月31日付で金沢営業所(石川県金沢市)を閉鎖、新設はありませんでした。なお、3月1日既報のとおり、フローテクノ(株)を子会社化いたします。同社は今後、需要拡大が大きく見込まれる都市再生大型インフラ整備(40m以深の大

深度地下工事)対応の工法や、橋梁・道路等の維持・補修工事の新工法などを得意としており、当社の首都圏エリアでのシェア拡大のスプリングボードとなるものと期待しております。

## 財政状態(連結)の変動状況

	総資産 (百万円)	株主資本 (百万円)	株主資本比率 (%)	一株当たり株主資本 (円)
42期第1四半期	86,872	34,222	39.4	1,146.46
41期第1四半期	87,011	32,982	37.9	1,104.65
(参考)41期通期	81,977	33,465	40.8	1,120.76

## 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	現金及び現金同等物 期末残高 (百万円)
42期第1四半期	3,776	168	993	18,710
41期第1四半期	9,174	33	3,331	17,610
(参考)41期通期	10,219	11	7,833	14,108

## 第42期(2006年10月期)の連結業績予想

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	EPS (円)
中間期(予想)	32,560	1,600	1,470	540	18.09
通期(予想)	63,210	1,910	1,680	610	20.43

## 業績予想に関する定性的情報等

現時点までの業績は、概ね当初計画通りに推移していることから、通期の連結業績予想は平成17年12月9日発表の数値から変更しておりません。また、この業績予想については、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の経済環境予想等に基づいて予測し作成し

たものであり、リスクや不確定要素が含まれております。従いまして、実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、市場動向、競合状況等、今後様々な要因によって、記載の金額の予想数値と異なる可能性がありますのでご承知おきください。

## 連結財務諸表

## 貸借対照表

(単位:百万円)	4 1期第1四半期 (2005.1.31)		4 2期第1四半期 (2006.1.31)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
<b>資産の部</b>				
流動資産	<b>35,309</b>	40.6	<b>36,151</b>	41.6
現金及び預金	17,618		18,713	
受取手形及び売掛金	15,065		14,250	
たな卸資産	663		545	
建設機材	1,797		1,394	
繰延税金資産	283		333	
その他	431		1,818	
貸倒引当金	551		905	
固定資産	<b>51,702</b>	59.4	<b>50,721</b>	58.4
有形固定資産	<b>44,891</b>	51.6	<b>43,043</b>	49.6
レンタル用資産	10,658		9,769	
建物及び構築物	6,854		6,369	
土地	26,060		25,796	
その他	1,318		1,108	
無形固定資産	<b>782</b>	0.9	<b>647</b>	0.7
連結調整勘定	531		409	
その他	250		238	
投資その他の資産	<b>6,027</b>	6.9	<b>7,030</b>	8.1
投資有価証券	4,181		6,078	
繰延税金資産	719		-	
その他	2,828		1,787	
貸倒引当金	1,703		834	
<b>資産合計</b>	<b>87,011</b>	100.0	<b>86,872</b>	100.0

(単位:百万円)	4 1期第1四半期 (2005.1.31)		4 2期第1四半期 (2006.1.31)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
<b>負債の部</b>				
流動負債	<b>29,730</b>	34.2	<b>30,197</b>	34.8
支払手形及び買掛金	13,081		12,227	
短期借入金	791		2,650	
1年以内返済予定の長期借入金	10,691		10,741	
未払法人税等	429		596	
賞与引当金	644		667	
未払金	3,477		2,452	
その他	615		860	
固定負債	<b>24,208</b>	27.8	<b>22,346</b>	25.7
長期借入金	20,201		18,439	
退職給付引当金	1,263		1,548	
役員退職慰労引当金	115		136	
長期未払金	2,528		2,019	
その他	99		202	
<b>負債合計</b>	<b>53,939</b>	62.0	<b>52,543</b>	60.5
<b>少数株主持分</b>				
少数株主持分	<b>90</b>	0.1	<b>105</b>	0.1
<b>資本の部</b>				
資本金	<b>8,596</b>	9.9	<b>8,596</b>	9.9
資本剰余金	<b>9,720</b>	11.2	<b>9,720</b>	11.2
利益剰余金	<b>14,005</b>	16.1	<b>13,733</b>	15.8
その他有価証券評価差額金	<b>842</b>	0.9	<b>2,360</b>	2.7
自己株式	<b>183</b>	0.2	<b>188</b>	0.2
<b>資本合計</b>	<b>32,982</b>	37.9	<b>34,222</b>	39.4
<b>負債・少数株主持分及び資本合計</b>	<b>87,011</b>	100.0	<b>86,872</b>	100.0



## 損益計算書

(単位:百万円)	4 1 期第 1 四半期 (2004.11.1 - 2005.1.31)		4 2 期第 1 四半期 (2005.11.1 - 2006.1.31)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
売上高	17,612	100.0	17,503	100.0
売上原価	12,905	73.3	12,222	69.8
売上総利益	4,707	26.7	5,281	30.2
販売費及び一般管理費	3,958	22.5	3,990	22.8
営業利益	748	4.3	1,290	7.4
営業外収益	102	0.6	78	0.5
受取利息	1		0	
受取配当金	11		9	
投資有価証券売却益	12		8	
受取賃貸料	23		22	
その他	53		38	
営業外費用	132	0.8	131	0.8
支払利息	88		84	
その他	43		46	
経常利益	719	4.1	1,237	7.1
特別利益	157	0.9	10	0.0
特別損失	21	0.1	353	2.0
税金等調整前四半期(当期)純利益	855	4.9	895	5.1
法人税、住民税及び事業税	364	2.1	581	3.3
法人税等調整額	61	0.3	38	0.2
少数株主利益	30	0.2	34	0.2
四半期(当期)純利益	398	2.3	317	1.8

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	4 1 期第 1 四半期 (2004.11.1 - 2005.1.31)		4 2 期第 1 四半期 (2005.11.1 - 2006.1.31)	
	金額	金額	金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,174	3,776		
投資活動によるキャッシュ・フロー	33	168		
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,331	993		
現金及び現金同等物の増加額	5,876	4,601		
現金及び現金同等物の期首残高	11,734	14,108		
現金及び現金同等物の期末残高	17,610	18,710		

### とってもいいモノ・読者プレゼント

小誌P.5でご紹介した取扱商品のメーカーのノベルティグッズを、アンケートハガキをご返送いただいた方の中から抽選で差し上げます。今回は3種類。ひとつ目は株式会社小松製作所様(<http://www.komatsu.co.jp/>)の油圧ショベルPC200-8のミニチュア。ふたつ目は、日本車輛製造株式会社様(<http://www.n-sharyo.co.jp/>)から鉄道車両メーカーならではの、新幹線のチョロQ<sup>®</sup>を、それぞれご提供いただきました。そして当社からは回転クリップ付多機能ペン、uni・クリップターンをご用意。これらの中からお一人様一つ、合計で50名様にプレゼントいたします。ふるってご応募ください。

なお、締め切りは5月10日(当日消印有効)です。当選の発表は発送をもって替えさせていただきます。



チョロQ<sup>®</sup>は株式会社タカラトミーの登録商標です。

## 株主様からのご質問に答える

## Q &amp; A コーナー

株主の皆様からカナモトに寄せられたご質問をご紹介します、誌上でお答えしています。

**Q** 最近、新聞紙面を賑わしている内部統制はカナモトにも関係があるのですか？

**A** 内部統制とは、決算書が正しく作成されているか、リスク管理がされているかどうか、経営者が日々の会社の業務をチェックする仕組みのことです。

近年、上場企業の粉飾決算や有価証券報告書の虚偽記載などが頻発していることから、2006年5月から新会社法が施行されます。2009年3月期から上場企業は内部統制システムの導入が義務付けられるとともに、決算期ごとに経営者が自社の内部統制システムを評価・公開し、監査法人による監査を受けたうえで、有価証券報告書などと一緒提出することが定められています。当社も当然、対象企業となっています。

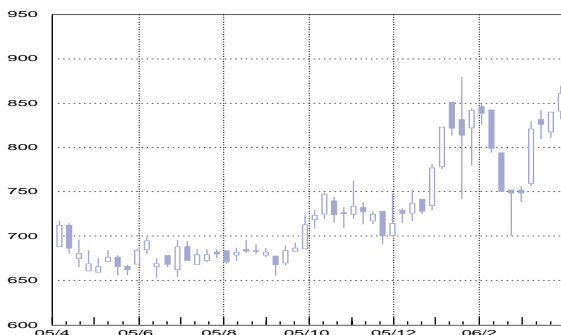
内部統制の目的は、「財務報告の信頼性確保」「業務の効率化」「法令遵守」「資産の保全」の4つで、最終的には企業価値・株主価値を向上させることです。カナモトでは、2005年12月に内部統制プロジェクトチームを発足し、まず「財務報告の信頼性確保」を最優先事項に掲げ、鋭意作業を進めています。具体的には、各部署・各現場の業務内容を文書化・フローチャート化してリスクの洗い出しを行った結果を経営者が評価し、補完が必要と判断される場合は修正・補強をすることで、透明性が高く、ステークホルダーからの希求に資する企業を目指してまいります。☑

**Q** 2006年3月から固定資産の減損会計が導入されると聞いています。減損会計が導入されるとカナモトにはどのような影響が出るのですか？

**A** 固定資産の減損会計とは、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなった固定資産等について帳簿価額(簿価)を、現在の時価にまで減額する会計処理のことです。固定資産の減損会計が導入されるきっかけは、企業がバブル期に購入した土地や建物などの帳簿価額が現在の価値とは大きく乖離しているのではないかと指摘がなされたため、2006年3月以降に迎える決算から減損処理の開示が義務化されることになりました。減損会計の対象となるのは、有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産で、既に評価方法が規定されている金融資産、繰延税金資産、前払年金費用などの固定資産は対象となりません。

当社では現在進行中の2006年10月期から減損会計を適用しており、当該第1四半期には小誌9頁に記載のとおり、遊休化した土地及び賃貸中の土地建物などを対象に約340百万円を減損処理しました。今後、一部閉鎖店舗の土地建物の処理が見込まれるため、通期では約600百万円程度の減損損失を見込んでいます。なお、当期業績予想には前述の減損損失を見込んでいます。☑

## 株価チャート(週足)



## 株価および売買高(東証分のみ。単位:円、出来高は千株)

	始値	高値	安値	終値	出来高
2005年 4月	692	717	662	670	1,404
5月	660	684	657	679	558
6月	680	700	654	686	789
7月	687	695	668	682	426
8月	683	695	670	680	638
9月	681	720	656	713	872
10月	719	749	710	730	1,593
11月	733	763	692	706	1,496
12月	704	780	703	776	2,108
2006年 1月	778	880	743	841	1,582
2月	841	845	700	741	707
3月	748	869	740	861	1,020

## 役員一覧(2006年4月1日現在)

## 取締役

代表取締役社長	金本 寛中 *	取締役相談役	鷺田 秀光
取締役執行役員・経理部長 情報システム部管掌・債権管理部債権管理課管掌	卯辰 伸人 *	取締役 [(株)カンキ代表取締役社長]	佐藤 幸夫
取締役執行役員・内部統制プロジェクトチーム委員長 総務部管掌・債権管理部審査課管掌	金本 栄中 *	取締役執行役員・営業統括本部長 レンタル事業部長・近畿中部地区担当部長	金本 哲男 *
取締役執行役員 経営企画部長・秘書室長	成田 仁志 *	取締役執行役員・レンタル事業部副事業部長 特販事業部長・品質保証室長・関連企業室長	平田 政一 *
取締役執行役員 事業開発部長・情報機器事業部長	北方 敬一 *	取締役	川村 雄一
取締役	川島 治		

## 監査役

常勤監査役	奥村 敏三	常勤監査役	澤田 紳六
監査役	橋本 昭夫	監査役	辻 清宏

## 執行役員

情報システム部長	熊谷 浩	レンタル事業部北海道地区担当部長	金本 龍男
債権管理部長 監査室長・法務室長	麻野 裕一	レンタル事業部東北地区担当部長	長崎 学

(注1)\*印の取締役は、執行役員を兼任しております。(注2)川村雄一氏及び川島治氏は、商法第188条第2項第7号12に定める社外取締役であります。  
(注3)橋本昭夫氏及び辻清宏氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

## 編集後記

5年7ヶ月ぶりに1万7000円台を回復した株式市場は以降、順調に高値を続けています。この景気の長さは今月で「バブル」と並び、12月まで続くかと戦後最長の「いざなぎ景気」をも超えるとのこと。当社の株価も徐々に上昇、これも皆様のご支援のお陰と感謝しております。しかし、景気回復の文字は躍れど好況さを実感できないのは、格差、格差、格差と、格差が在り過ぎるからかもしれません。

難しい話はどなたかに任せて嬉しかったニュースをひとつ二つ。まずはトリノ五輪。日本はあと一歩メダルに届かず、もどかしい毎日でしたが、日本唯一のゴールドメダリスト・荒川静香選手の演技はまるで天女のようなものでした。会場のスタンディングオベーションが彼女の華麗さを物語っていました。そしてWBC優勝。不審な審判と不審な試合の組み合わせには釈然としない思いが残りますが、イチローの気迫、日増しに輝きを増した選手達、見事な王采配、みんなみんな素敵でした。こちら観客の盛り上がりを見れば、スリリングで面白いのは日本の野球、これが世界のスタンダードと言わしめたようでありました。日本よ、野球も経営も、グローバルスタンダードは我に在りと胸を張れ!といったところでしょうか。

ところで3月の終わりに東京で拝見した桜の壮麗さ綺麗さには圧倒されました。いや、咲き誇るとはまさにあの姿。歌えるものなら、森山直太郎の「さくら」を独唱したいくらいに本当に美しかったんです。それにしても桜前線とは南から順番に北上するものと思っていまして、今年は少々違うようで、東京が満開を迎えた後、逆戻りして名古屋、大阪が開花。そして札幌は平年並みのGWあたりか平年よりも遅めの様子とか。なにか景気の回復した街を追いかけているかのような桜の咲き方に妙に感心しつつ、北海道も、もう少し我慢すれば春は来ると期待する今日この頃です。☺

## 株主の皆様へ 株券の電子化についてのお知らせ

株券の取引等がより安全かつ迅速に行われることを目的として、2004年6月に「株券の電子化」に関する法律が公布されました。これにより、上場会社の株券は2009年6月までに電子化されます(具体的な実施日は政令で決定されます)。

「株券の電子化」の詳細につきましては、日本証券業協会 証券決済制度改革推進センターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先

証券受渡・決済制度改革懇談会事務局 TEL. 03-3667-4500 ホームページ <http://www.kessaicenter.com/>



株式会社 **カナモト**

(東証一部・札証 証券コード: 9678)

〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19

Tel : (011)209-1600(大代表)

<http://www.kanamoto.co.jp>

### 会社概要(2006年4月1日現在)

商号	株式会社カナモト (英文 Kanamoto co.,ltd.)
設立	1964年10月28日
資本金	85億9,673万円(払込済資本金)
上場取引所	東京証券取引所市場第一部 札幌証券取引所
営業拠点	145カ所(カナモト個別)
本社	札幌市中央区大通東3丁目1番地19
発行株数	30,253千株(発行済株式総数)
決算期	毎年10月31日(年1回)
証券コード	9678
従業員数	1,181名(役員・嘱託・臨時雇員を除く)

### 株主メモ

決算日	毎年10月31日(年1回)
株主総会	毎年1月中
同総会議決権行使株主確定日	毎年10月31日
利益配当金受領株主確定日	毎年10月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年4月30日
公告の掲載 名義書換代理人	当社ホームページ、日本経済新聞* 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 (〒100-8212) 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 (〒100-8212) 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
郵便物送付先 および電話照会先	東京都豊島区西池袋1丁目7番7号 (〒171-8508) 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 電話 0120-707-696(フリーダイヤル)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店

\* 当社公告の掲載につきましては、当社ホームページ <http://www.kanamoto.co.jp> または <http://www.kanamoto.ne.jp> に掲載いたします。  
なお、やむを得ない事由により、ホームページに公告を掲載することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。